

子どもは未来をつかみたい

2021年度年次報告 2022年度年次計画  
(認定) 特定非営利活動法人**ラオスのこども**



## 目次

### 2021年度 第20期 事業報告

この1年	p2
ラオスでのプロジェクト	
I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動)	p3
II. 本をつくる(出版プロジェクト)	p5
III. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター)	p5
日本での活動	p6
組織の運営	p7
2021年度 第20期 会計報告	p8
2022年度 第21期 事業計画・予算	p9



- ★ 中等学校の図書館整備事業 3校
- 学校図書室(HakArn)整備新規開設 11校

## 「ラオスのこども」とは？

### はじまり

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人とが、「ラオスの子どもたちも日本との子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

### 足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものでした。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本とをつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しました。

### めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の組織の理念は、校正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自

らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくることです。

### これまでの取り組み、成果

皆さまのご支援の結果、今年度は、ラオス語図書2種類3,500冊を現地で出版し、11か所で新規の学校図書室を開設することができました。

今年度末までの累計ではラオス語図書 230種類 92,8,055冊(図書195/紙芝居19/教科書類6/ニュースレター10)を出版し、ラオスの小中高校10,644校(小学校8,813校、中等学校1,831校)のうち、340か所で図書室(うち16か所は地域文庫)を開設し、2,732校に図書セットを配付。2,328校でフォローをしました。

学校外において子どもたちが自由に様々な活動ができる「子どもセンター」は、これまでに全国14ヶ所の運営を支援しました。

# 2021年度 第20期 事業報告 (2021年7月1日～2022年6月30日)

## この1年

「ラオスのこども」は1982年に任意団体として活動を開始し、40年が経ちました。これまでラオスにおいて、子どもたちの教育環境を改善するために・ラオス語図書出版・本を読む環境の整備・子どもたちが集う場の設置支援などにより、多くの皆さまのご支援のもと、ある程度の成果を残すことが出来たと自負しています(活動の歴史は「ラオスのこども通信」82号をご参照ください)。この歴史を踏まえ、今後どのような姿で、どのような活動をおこなうのか、この数年間、話しあいが続きました。その結果、理事会で合意されたのは「まだ私たちの活動はラオスで必要とされており、これまでの事業成果を踏まえ・図書館を起点とする読書推進活動を継続させること・ラオス語図書の出版に力を入れる」という方向性です。具体的には、ヴィエンチャン県で中等学校を中心に、図書館活動を、読む楽しみを育てるだけでなく、教育を高めるシステムの一環として機能させる事業をさらに深め、またラオス語図書出版・販売により力を注ぐことを決定しました。

## 重点的取り組み

本年度は、4年間にわたりヴィエンチャン県で進めてきた、外務省日本NGO連携無償資金協力による中等学校図書館整備事業の最終年でした。この事業は、読書を楽しむ場としての図書館から、さらに学びを豊かにする積極的な図書利用の場、担当教員のネットワークの構築による自律的な図書館活動の場の構築を目指すものです。ラオスでのコロナによる学校閉鎖が続き、年度前半は学校での図書館活動を実施することが困難でした。12月に現場を訪問することが可能となったことで事業期間を半年延長し、図書館の働きを定着させ発展させる活動は成果をもって終了することができました(正式には2022年度7月末終了)。

これらの図書館活動は主に、外務省日本NGO連携

無償資金協力、JICA草の根技術協力事業など、公的資金(ODA)などを受けて実施してきましたが、ODAでは「同じ内容の事業を継続的に支援することは出来ない、持続発展性を含むものでなければならない」という基本的な方針があります。一方、教育支援の成果は、3年4年で目に見えるものではなく、点から面へと活動成果を広げることで、初めて自律的な日常へ転化できるものと私たちは確信しています。また、ラオスのように政府資金が乏しい体制にあって、事業の自律的継続性を保証することはなかなか困難です。大規模な事業の実施には公的資金が必須である現実において、これらのギャップは大きく、事業をどのように組み立てるか苦慮しましたが、調整の結果、ヴィエンチャン県で「中等学校における学校図書室の役割拡充を通した教育改善事業」として、JICAと協力事業を進めることができたことになりました。

東京事務所でもテレワークによる業務推進が定着し、前年度よりは全般的にスムースに運営をおこなうことができました。一部を除きイベント開催がほとんど出来なかつた一方で、書き損じはがき・未使用切手回収キャンペーンやカレンダー販売で成果があり、加えて経費削減に取り組むことで、昨年度に続き黒字で決算を迎えることが出来ました。さらに、多くの皆さまのご支援により、ここ数年問題であった実質財産の赤字をかなり圧縮することができました。感謝に堪えません。「家でできるボランティア」として、企業の皆さまの「ラオス語絵本プロジェクト」への参加も増え、私たちの活動への認知が進んでいることに感謝します。ラオス事務所においてもスタッフの成長が著しく、プロジェクト運営に加え図書販売などにおいても主体性を發揮し、例年にもまして成果を上げることができました。

## ラオス教育データ

純就学率<sup>\*1</sup>進学率の推移(全国平均)

年度	純就学率(%)		中等学校 進学率
	小学校	中等学校 <sup>*2</sup>	
2005-2006	83.9	51.7	
2010-2011	94.1	62.9	87.6
2015-2016	98.8	82.2	93.8
2018-2019	99.0	82.8	87.9
2021-2022	98.1	67.8	85.6

入学した児童生徒が卒業する割合 2021-2022

県別	小学校	中等学校前期
全国平均	77.1	63.1
アタブー県	70.1	55.8
カムワン県	78.8	65.3
ヴィエンチャン県	84.2	67.6

小中学校の就学率や中等学校への進学率は年々上がってきましたが、ここ数年、中等学校の進学率が下がっています。また、2021年度は純就学率も大きく低下しました。更に入学しても、卒業できない子ども達は小学校で23%、中等学校前期課程で37%います。小学校でも中等学校でも近年卒業率が低下しており、特に中等学校で、卒業ができない生徒が増えている状況がみられます。コロナ禍と不況の影響が考えられます。

\*1 純就学率:教育を受けるべき年齢に実際に教育を受けている人の割合

\*2 中等学校は7年間あり、1～4年が前期課程、5年～7年が後期課程で、

日本の中学、高校レベルにあたる。純就学率は前期課程のもの。

(出典) 教育スポーツ省 Annual School Census

# 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスではこれまで、図書館や書店が身近にない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きができなくなってしまうという状況が続いていました。新しい知識や技術を学びたいと思っても、読み書きができないとチャンスが限られてしまいます。そこで当会では、子ども達に本を届け、読書の楽しみを伝える活動をおこなってきました。ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書セットを配付し、329校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図ってきました。

そして今、私達が取り組んでいるのは、子ども達の「もっと読みたい」「もっと学びたい」を支える活動が、ラオスの人々自らにより担われ、広さと深さを持つようになることです。そのため当会は、学校教員、教育局、保護者、地域住民など子どもを取り巻く人々が本に関心をもてるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

## 中等学校での図書館建設整備事業

### 1) 図書館応用研修

昨年度に図書館を開設したサカ中等学校、ヒンフープ中等学校で、図書館の応用研修として、①図書館サイン・展示研修と、②授業における図書活用研修を実施しました。研修の講師である専門家下田尊久さんはオンラインで繋いでおこないました。コロナ禍によるロックダウンにより9ヶ月遅れることとなりましたが、2022年1月に実施できました。



### 2) モニタリング

1・2年次に各校での定期モニタリングが充分にできていなかった反省をふまえ、3年次は、およそ3か月に1度のモニタリングを実施しました。

### 3) 交流イベントの開催

図書館活動への認知度を高め、住民参加を促すために、2022年1～2月にかけて、各校で「学校図書館オープンデー」を開催しました。図書館担当教員や図書館ボランティアの生徒が、応用研修で学んだことを活かして、図書館サインや展示に工夫をこらし、招待した地域住民や、先生・生徒に披露しました。また「授業における図書活用」の研修を受けた教員が、他の教員に自身の授業計画案を発表し、ノウハウを伝授しました。



事業の集大成として、4月20-21日に3校合同の「学校図書館交流大会」を実施しました。各校対抗の「図書館サイン・展示コンテスト」や、各校の代表教員による「授業における図書活用」の発表会を行ないました。大会の模様は記録集にして、ヴィエンチャン県内の中等学校に配布しました。

### 4) 終了時評価

5月27日に、対象校3校合同で、地元行政機関・関連省庁参加のもと、評議会議を実施しました。研修を受けた教員が自身の授業で積極的に実践していること、イベント実施に効果がみられたこと、モニタリングが定期的に実施され、図書館担当教員間のSNSグループネットワークが、教員どうしの交流・情報交換に役立っていることが示されました。

#### ＜成果＞

最終年次に入って間もなく、コロナの影響で半年以上の活動延期を余儀なくされました。そのため、事業終了を5か月延長し、当初の活動計画の実施範囲を一部変更しながら、事業を完了しました。

3年間の活動を通じて、郡教育局やVEDCの学校との連携や図書館支援に対する認識が高まり、図書館担当教員も、基礎的な図書館運営業務だけでなく、新着図書の紹介展示をしたり、自分たちの図書館のニーズに合わせて図書や備品を選定するようになってきました。学校図書館運営計画も自らの学校の状況に合わせて作成出来るようになり、自主的・継続的な図書館運営を可能にする土台が出来てきました。

（日本NGO連携無償資金協力事業）



## 11ヶ所の小中学校に図書室をオープン

既存の学校図書室のフォローアップ活動は、ヴィエンチャン県3校を訪問し、図書の補充と運営研修を実施。また、17校の既存図書室に図書を補充しました。

新規開設は4都県の9小学校と2中等学校の11校で実施。開設時には、担当教員を対象に図書館運営研修をおこないました。

今年度は、当初の計画に加えて、クラウドファンディングによる成果や国際NGOの事業受託などがあり、多くの図書室を開設することとなったものの、コロナ禍の影響があり、予定を度々延期しながら、事業を完了させることができました。

(ご支援:福岡那の香ライオンズクラブ、すかいらーくグループ、指定募金、冬募金2020、(公財)ベルマーク教育助成財団、Child Fund Lao)



## 事務所併設子ども図書館の活動状況

昨年度より図書館再開期間は、これまでの週6日から、週5日の体制に変更しています。学校閉鎖が続き、学校再開後も学校が昼休み中の生徒の外出を禁止していたため、稼働は夏休み期間の3か月のみで図書館の来館者数は1ヵ月平均52人と落ち込みました。

中等学校での図書館整備事業に連動した「図書館展示」を実践し、スタッフの図書館活動のスキルアップを図ることが出来ました。コロナの感染状況が落ち着いた後、今後、図書館活動を本格再開させるにあたり、一旦落ち込んだ来館者をどう呼び戻すのか考えていく必要があります。

## もっと学ぶことが出来るように（奨学金事業）

今期も継続して、ヴィエンチャン県ポンホーン郡ポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ郡ヒンフープ中等学校の3校にて奨学金事業を実施しました。今年度は、コロナの影響に加えて、対象校で実施しているプロジェクト「中等学校での図書館整備事業事業」の最終年度であることをふまえ、新たな奨学生の募集は行ないませんでした。昨年度から継続する奨学生の現状調査を行い、ポンサイ中等学校3名、サカ中等学校3名、ヒンフープ中等学校2名の計8名の生徒に奨学金を給付しました。



コロナ禍による断続的な学校閉鎖に加えて、物価が高騰し、特に通学に欠かせないガソリン代が値上がりし、生徒達の就学に影響がでています。そのような状況の中、就学継続が困難だった生徒たちに、学習を続ける機会を提供することができました。

奨学金支援に関する「マンスリーサポーター通信」は年2回発行しました。

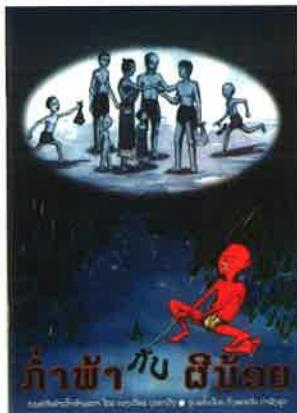
(ご支援 マンスリーサポーター、指定寄付)

## 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店や図書館がほとんど見当たらず、本を目にする機会がありません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれたものが不可欠なことから、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人やタイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘・育成し、これまでに228点924,555冊の本や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。首都では図書を販売する場所が少しずつ増えていますが、一方で、子ども向けの書籍はバラエティが少なく、質の向上が課題です。私たちは「子どもの心に灯をともす」ような、質の高い本作りを目指しています。

人気の図書2点3,500冊を出版



『カンパーとピーノイ』  
(孤児と小さいお化け)  
第6版 2,000部



『カンパーとナンガー』  
(孤児と象牙娘)  
第5版 1,500部

上記2作品とともに、文)ドゥアンドゥアン ブンヤボン  
絵)ヴォンサヴァン

『カンパーとピーノイ』『カンパーとナンガー』は、ラオスの民話で、一連の物語です。中等学校の文学の教科書にも掲載されており、開設支援した図書室でも、貸出率No.1の人気図書となっています。

(ご支援 学習院女子大学 絵本出版指定募金)

文字絵本数字絵本シリーズの『なんのどうぶつ?』『おほしさまきらきら』『くだものをかぞえよう』については、初版の色合いを復元した再版を計画しました。今期は、初版画像のスキャニング、入稿データの編集、ならびに出版許可の手続きを進めました。6月に印刷を開始しましたが、一部で製本の不具合などがあり納品は次年度にずれ込みました。

### 『アタプーの詩』活用ワークショップ

昨年度出版した『アタプーの詩』(2018年のダム崩壊で水害を受けた被災地アタプー県サナームサイ中等学校の先生・生徒が綴った詩集絵本)の活用ワークショップを、3月21~25日にアタプー県にて実施しました。



アタプー県サナームサイ郡の小学校、中学校、中等学校計5校を対象に、本の引渡式と読み聞かせ、防災マップづくりを行いました。



『アタプーの詩』の出版においては、制作プロセスやその後の活用方法までトータルで考慮した出版事業を開いていくことができました。

(ご支援 公益信託 大成建設自然・歴史環境基金)

## 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはあっても、指導ができる先生がない、道具や材料がないといった理由で、子どもたちの情操面を伸ばすような活動をする機会がないという状況がありました。そんな中、1994年に、当会などの協力によって、自己表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、活動は定着し、同様の施設が全都県に設置され広がりました。しかし近年は、社会の変化にともない、子ども達のニーズが多様化することで、来館者が減少し、活動が停滞している館が増えてきています。当会では、自立を促す方向から、各センターの個別支援を減らしてきましたが、センターの活動再建のために、再度サポートすることを検討しています。

今期は全国での活動状況の把握をしつつ、支援活動は休止としました。

# 日本での活動

日本では、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもインターンやボランティアの仲間とともに作り上げています。

## 中学校・高等学校・大学で授業

今期も継続してオンライン開催と対面を合わせて、5校で10回の講師派遣を実施することが出来ました。今年度も継続して学校への講師派遣をおこない、ラオスや国際協力、当会の活動への理解を促進することができました。また、オンラインでラオス事務所や事業地と繋いでの授業なども実施しました。

## 参加型プログラム

### ●ラオス語絵本プロジェクト

今年度のプログラム申込者は85件で、合計1,183冊の絵本が作成され、昨年度よりも件数は10件ほど減ったものの、企業など団体での取り組みが増えたことで図書は約200冊増加しました。沖電気工業株式会社、株式会社ニコンの絵本作りイベントも、在宅での実施となったことで参加者が増え、完成する絵本も増加しました。しかしラオスへ送る郵便が引き受けを一時中止しており、現地への送付に関しては滞りました。

翻訳シートのデジタル化と改訂作業は、ラオス語と日本語の出来るインターンの参加により、スピードをあげて作業を進めることができました。

### ●書き損じハガキの収集

今期は「書き損じはがき・未使用切手回収キャンペーン」に組織的に取り組み、310件を超える個人や団体から、18,046枚の葉書(922,764円相当)と1,258,602円分の未使用切手、172,222円の現金をいただきました。キャンペーンの成果としての学校図書室の開設は次年度に実施します。

## イベント開催・活動ミーティング

エスノースギャラリーでの展示販売会をはじめとした各イベントを通して、資金調達と共にラオス理解、活動理解を広める活動をおこないました。パルシステム神奈川ゆめコーポが開催した「ハートカフェ」や「グローバルフェスタ」には、オンラインで参加しました。

また、一昨年は中止、昨年はオンラインで実施した「ピーマイパーティ」を、初の着席方式で、参加人数を限定しながら、開催することができました。3年ぶりに開催した京都での織物展は、観光客はまだ多くはなかったものの、久しぶりの開催ということもあり、多くの方にご来場いただきました。

# 組織の運営

## 1. 全体運営

### ■理事会

理事7名、監事2名により運営が担われ、年4回理事会を開催し、オンラインでの開催により毎回ほぼ全員の参加となりました。財政状況、資金調達、プロジェクト運営についての報告のほか、今後の当会の運営をどのように展望するか、JICAに申請する事業内容の確認などが話し合われました。

### ■通常総会

9月18日、活動会員45名（書面表決、委任状提出を含む。うちオンライン参加者は17名）、活動協力者7名、計52名が出席し2021年度通常総会を開催しました。2020年度の事業報告案及び決算報告案に関する事項が承認され、2021度の事業計画書、予算案について報告されました。第2部は代表のチャンタソンが、今のラオスの様子をヴィエンチャンからオンラインで報告しました。

## 2. 東京事務所

### ■体制

常勤専従スタッフは5月より2名から1名に減りつつ、非専従事務局長1名とともに運営を維持しました。今期も引き続き、会計ボランティアスタッフ2名、インターン5名の多大なる協力により事務局が支えられました。

### ■事業運営

事業では、ラオスの学校が休校になるなど、実施を中断をせざるを得ない時期があり、関係各所との協議や予算調整など、昨年度に引き続き、多様な業務が発生しました。更に、新規事業の立案のために、多くの時間を割き話し合い、発展した事業としてまとめ申請することができました。また、コロナ禍において、ラオスに日本人スタッフの駐在を維持できたことにより、ラオスの状況について的確な情報収集が可能となり、両事務所が頻繁に意見交換をおこない、遅滞なく事業をすすめることができます。

## ■組織運営

会費による寄付が認定NPOの特典である税制優遇を受けられていない現状に対し、賛助(サポート)会員の特典を無くすことで、優遇を受けられるよう制度を変える検討をおこないました。

9月～12月に、賛助会員新規ご入会キャンペーンを実施した結果、新規ご入会や再入会を合わせて22名の申し込みを受けることができました。

## ■資金調達・広報

SNSの投稿回数は前年度より減ってしまったものの、ホームページの更新は順調におこなわれ、新聞記事の掲載は増加し、6回となりました。

紙媒体「ラオスのこども通信」の発行は、準備が遅れたことから、例年より少ない年2回計3,000部の発行となりました。また、年次報告書を700部発行しました。

恒例のオリジナルカレンダーは、『子どもたちのアート』を1,500部制作し、目標の1200部を販売。これまで最高の売上となりました。

2月17日～3月30日には、クラウドファンディングで【「もっと本を読みたい！」ラオスの子どもたちに、やべみつのりさんの絵本と紙芝居を】を実施し、415,000円のご支援をいただくことができました。

## ■人材育成

専門家の現地派遣が困難であったことから、ラオスでのセミナー開催や事業アドバイスはオンラインによっておこないました。このことから、東京事務所スタッフも進行をモニターすることで、専門家による事業アドバイスを共有することが可能となり、専門性の向上につながりました。

「書き損じキャンペーン」において、アドバイザーの主導のもと、広報戦略の立て方から展開まで、指導を受けることで成果を上げることができました。

組織活動の安定のためには、さらにファンドレイジングや広報に関わる人材、プロジェクト運営のためには、読書推進活動にかかる人材の育成が必要とされています。



## 3. ラオス事務所

### ■体制

7月に1名が退職し、年間を通して4名の現地スタッフと日本人駐在員1名により運営されました。

### ■事業管理

コロナ禍でスケジュールの変更・延期があったものの、スケジュールをやりくりして概ね事業を完了することができました。

MoUの報告、評価会議開催についても、遅れがちだが進めることができます。

これまで研修を受けてきた各校の担当教員達が、事業に積極的にかかわる姿勢を持ち、さらに行政機関、村人(VEDC)の関心が高まってきたことは、成果と言えます。

### ■組織運営

スタッフ会議の定期的な開催や事業活動後の振り返りや年度末の事業・組織評価などにより、スタッフが徐々に、NGOとしての活動全体を見通すことができるようになっています。

年度末の事業・組織評価でも、状況を見据えた建設的な意見できるようになっています。

### ■資金調達

販売委託先は33か所に増加しました。図書販売については、フォーマットを改善することで、売上データを詳細に把握できるようになりました。

ラオスでの図書販売売り上げは、好調だったものの為替レートの変動により、目標値にはわずかに届きませんでした。国際NGOからの大口の発注があつたことが売り上げを伸ばした一方で、販路開拓が未だ充分でありません

ラオスで活動する国際機関(Child Fund Lao, World Vision)から、図書購入や研修提供を受託しました。

### ■人材育成

駐在員がサポートしながら、スタッフ会議は、週1回のペースで開催しており、事業スケジュールのマネジメントが出来るようになりました。

### ■広報

ラオス国内での団体認知度を高めるため、ラオス事務所のフェイスブックページで、ラオス事務所の活動紹介や出版物の宣伝をしました。

子ども達に向けた読み聞かせの動画配信(YouTubeチャンネル)は、2021年カレンダーに掲載した紙芝居の動画を月ごとに配信しました。

# 2021度 第20期 会計報告 (2021年7月1日～2022年6月30日)

## 活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	799, 000
2.受取寄付金	10, 761, 410
3.受取助成金等	12, 539, 909
4.事業収益	4, 393, 957
5.その他収益	755, 397
経常収益計	29, 249, 691
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	9, 626, 891
(2)その他経費	7, 633, 223
事業費計	17, 560, 114
2.管理費	
(1)人件費	2, 085, 542
(2)その他経費	1, 510, 336
管理費計	3, 595, 870
経常費用計	21, 155, 992
税引前当期正味財産増減額	8, 093, 699
法人税等	70, 000
当期正味財産増減額	8, 023, 699
前期繰越正味財産額	4, 056, 612
次期繰越正味財産額	12, 080, 311

## 貸借対照表

科 目	金 額
I 資産の部	
1.流動資産	15, 304, 665
資産合計	15, 304, 665
II 負債の部	
1.流動負債	3, 224, 354
負債合計	3, 224, 354
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	4, 056, 612
当期正味財産増減額	8, 023, 699
正味財産合計	12, 080, 311
負債及び正味財産合計	15, 304, 665

## 事業別損益の状況

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	2, 848, 277	1, 741, 010
中等学校の図書館整備	9, 583, 100	9, 583, 100
学校図書室の整備 *1	7, 448, 693	3, 288, 236
子どもセンター事業	10, 000	0
奨学金事業	488, 000	229, 751
交流事業 *2	1, 525, 745	888, 564
収益事業	2, 866, 213	2, 463, 196
事業部門計	24, 770, 028	17, 560, 114
東京管理費	3, 077, 051	2, 777, 272
ラオス管理費	1, 402, 612	818, 606
管理部門計	4, 479, 663	3, 595, 878
合 計	29, 249, 691	21, 155, 992

\*1 学校図書室の整備事業には、読書推進プロジェクト統括費用、新規案件形成の調査費が含まれます。

\*2 交流事業は、各種イベントや講演会費、ラオス語絵本プロジェクト、講師派遣・訪問受入などが含まれます。

出版事業、図書室整備、子どもセンター、奨学金事業の経常収益には、使途が制約された寄付金が含まれています。

**監査報告書**

特定非営利活動法人 ラオスのこども  
代表 チャンタソン インタヴァン 殿

2022年 9月 3日

特定非営利活動法人 ラオスのこども  
監事 矢崎芽生 殿  
監事 脇田康司 殿

私たちは、特定非営利活動法人ラオスのこども 第20期 2021年7月1日から2022年6月30までの事業年度における、事業及び会計の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1)会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。
- (2)業務監査について、理事会に出席し、理事及び事務局から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて、業務の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1)活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2)業務報告書の内容は、実際であると認める。
- (3)理事の職務執行に関する不正の行為または法令の定款に違反する重大な過失はないとの認める。

以上

2022年9月4日に脇田康司監事(弁護士)、矢崎芽生監事(公認会計士)により、監査がおこなわれ、上記の通り、監査報告書を受け取りました。

NPO法人会計基準に沿った会計システムで会計処理をおこなっています。より詳しい資料は、当会ホームページにてご覧いただけます。



# 2022年度 第21期 事業計画 (2022年7月1日～2023年6月30日)

## □方向性 全体方針

前第20期はなかなか納まらないコロナの影響を強く受けながらも、オンラインを活用することなどにより、事業面でも運営面でもある程度の成果を収めることができました。3年間にわたる外務省NGO連携無償協力事業「中等学校図書館整備を通じた読書推進事業」は最終年度でしたが、学校閉鎖などにより、計画通りに事業運営を展開することが出来ず、2022年7月一杯まで事業期間を5ヶ月延長することで完了しました。このヴィエンチャン県3ヵ所の中等学校での図書館設置事業は、単に図書館を設置すること終わらず、いかに学校での図書利用を高め、教育の質を上げるかのチャレンジとなり、現場の先生方のやる気を引き出し、教育関係者の関心を高め、成果を残すことが出来たことが、評価会議においても確認されました。今年度はこの成果を踏まえ、さらにヴィエンチャン県において、図書館活動により教育水準を高める活動が、持続的に展開されるようなシステム形成事業を、JICAとともに開始する予定です。ただし、この事業開始時期はラオスでのMoU取り付けやJICAとの契約手続に時間がかかることから、年度内に開始できるか不確実です。

活動を開始し40年が経ち、成果も見える一方、近年、活動の限界も明らかになっています。また、ラオスでの私たちの活動の必要性もまだ続いている。このことを踏まえ、会の中長期的な活動の方向性、形態をどのようにイメージするかの話し合いを、理事懇談会として継続的に開催し、2022年中には一定の合意形成をおこないます。その結果を踏まえ、22年6月で終了した第8次中期計画に続く、第9次中期計画を策定します。

東日本大震災以降、社会の関心がどちらかというと国内に向いていること、2年を越えるコロナ禍の影響により各種イベントの開催が困難であったことなどにより、組織運営費の調達が厳しく、財務的に大変厳しい状況が続いています。しかしながら、前期においては、活動を支えてくださる方々からの支援により、これまで蓄積していた赤字をかなり少なくすることができました。感謝に堪えません。今年度も引き続き、公的資金に頼らないことも運営ができるよう、私たちの活動の意義を広く多くの方にご理解いただき、さらにご支援の輪が広がるように努力を続けます。

ラオスでは、コロナ禍に加えウクライナで戦争の影響により、経済が疲弊し、貧困が拡大していると感じられます。私たちはより困難な状況にある子どもたちが、読書を通してその世界を広げ、より自律的な人生の選択ができるよう、支援を今年も続けます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の8名です。

理事	・塩谷 光	・新藤 雅章	・チャンタソン インタヴァン
	・西村 恵子	・野口 朝夫	・森 透
監事	・矢崎 芽生	・脇田 康司	

## ラオスでのプロジェクト

### I. 子どもたちが読書に親しむ環境を整える「読書推進活動」

#### ●中等学校の図書館整備を通じた読書推進事業

2019年3月から実施してきた、ヴィエンチャン県ポンホーン郡とビンフープ郡の3ヵ所の中等学校での図書館整備を通じた読書推進事業を7月末に完了する。

#### ●新規事業「中等学校における学校図書室の役割拡充を通した教育改善事業」

上記事業での経験を活かし、内容を発展させた事業をヴィエンチャン県ムーン郡・サナカム郡で実施する。事業開始に向けてJICAとの事業の大枠について合意し、ラオス政府了解(MoU)取り付け手続を進め、JICAとの契約準備をすすめる。



#### ●学校図書室の整備

小中学校の空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を以下の通り継続実施する。

- ・5～6校にて新規開設
- ・既設図書室のフォローアップ活動

#### ●学校図書室活用のための応用研修

昨年度までの実戦経験を活かし、中等学校の図書室を更に活用するための「図書室応用研修」をヴィエンチャン県内の4ヵ所の学校で実施する。

#### ●ALC図書館(ラオス事務所併設図書館)活動

事務所併設の図書館の活動は、コロナ禍により活動を停止していたが、規制が解除されつつある状況を踏まえ、活動を活性化する。

## II. 子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」

引き続き、専門家のアドバイスを得て、質の高い図書を計画的に出版する。

- ・「文字・数字絵本」の出版を完了する。
- ・クラウドファンディングにより企画した環境教育絵本『ぼくはどこへいくの』紙芝居『これはジャックのたてた家』の再販をおこなう。いずれも販売分も作成する。
- ・在庫切れになっている図書の再版や、新刊図書については、市場を意識しつつ、再販をおこなう。さらに新しい図書も企画し出版計画をすすめる。

## III. 子どもたちの居場所「子どもセンター運営支援」

全国での現在の活動状況などの把握を進めるが、支援活動は当面休止する。

## IV. 奨学金事業

会独自の奨学金事業は、3年間実施してきたヴィエンチャン県ポンホーン郡とヒンフープ郡の3か所の中等学校にて実施していた分については、継続して給付をおこなう。

また、今後の展開について再検討する。

## 日本での活動

資金調達や新たな支援者の開拓を目的とし、イベントへの参加や開催を効果的におこなう。企業との連携も継続させる。

学校などに講師派遣して実施する「出前講座」を継続する。オンラインでの実施を含めて、講師料や講座開催費を得ながら実施を継続する。また、支援者の拡大及び開発教育として、個人協力者に加えて、企業・学校・団体との連携を継続する。プロジェクト参加者が活動支援を継続するように、組み立てを工夫する。

資金調達及び支援者拡大として、昨年に引き続き「書き損じハガキ収集キャンペーン」を実施し、個人協力者に加えて、企業・学校・団体からの協力を得るなど、新規支援者を開拓する。

## 組織の運営

国内においては、目的、対象と成果を明確にした広報活動を強化することで、より多くの方々からのご支援を厚くし、資金調達に結びつける。

ラオスにおいては、学校における読書推進事業や図書出版の分野において、国際協力機関との連携を強め、活動をヴィエンチャン県およびラオスで広めつつ、資金調達をすすめる。

## 2022年度 第21期 予算 (2022年7月1日～2023年6月30日)

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	1,000,000
2.受取寄付金	5,950,000
3.受取助成金等	4,600,181
4.事業収益	4,200,000
5.その他収益	0
経常収益計	15,750,181
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	6,150,000
(2)その他経費	7,680,777
事業費計	13,830,777
2.管理費	
(1)人件費	1,650,000
(2)その他経費	2,674,000
管理費計	4,324,000
経常費用計	18,154,777
税引前当期正味財産増減額	-2,404,596
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	9,605,715

これまで以上に対象と成果を明確にした広報活動を強化することで、市民からの支援を厚くし、資金調達に結びつけます。

日本においては、以下の点を重視します

- ・国内での認知度を高めるためのメディアへの働きかけをすすめる。加えて、新規の支援者が増加するような戦略を作る。

- ・書き損じはがき・未使用切手回収キャンペーン第2弾、冬募金を着実に実施する。

- ・BASE ショップでの販売展開を広げる。

- ・ホームページのリニューアルを実行する。

ラオスにおいては、以下のことを取り組みます。

- ・ラオスでの、国際協力関連組織への広報活動を重視する。また、ラオス事務所併設図書館維持のための募金を実施する。

- ・引き続き、ラオス語図書の販売を拡充するとともに、オリジナルカレンダーの制作と販売も拡充。

- ・国際機関、国際協力NGOからの図書セット制作、読書推進研修などの事業受託をおこなう。

- ・自己資金拡充のため、ラオス国内の企業や団体へむけた募金パッケージを企画し売り込む。



特定非営利活動法人ラオスのこどもは、  
今なお十分な教育を受ける機会がないラオスの子どもたち  
の成長を願い、1982年から日本とラオスを中心に活動  
を続けている国際協力NGOです。あもに、「図書・紙芝居の出版」「学校・地域での図書室設立」「先生向けの図書室運営・図書活用の研修」「作家・編集者の育成」、子  
どもが集い遊び学べる「子どもセンター」の運営支援など  
を行い、子どもが自ら学ぶ力を伸ばす環境づくりに取り組  
んでいます。

#### 組織の理念

「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献する  
ことを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を  
主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しなが  
ら、読書に親しみ環境をつくります。

(認定) 特定非営利活動法人**ラオスのこども**

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303  
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail alctk@deknolao.net  
<http://deknolao.net>